



観 光 竜 王

Sight seeing RYUO

第85号

★
発行
竜王町観光協会

〒520-2592

滋賀県蒲生郡竜王町小口3番地
竜王町総合庁舎 西館2F

TEL 0748-58-3715

FAX 0748-58-3730

https://ryuoh.org

e-mail info@ryuoh.org



(2024鏡の里元服式)

©reiko murachi

『魅力ある景色は重要な観光資源』



竜王町観光協会

副会長 邑 地 礼 子

新年あけましておめでとうございませう。皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。また、平素は当協会の事業運営に多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、綾戸の勘定海路遺跡の発掘調査により、平安時代の高級陶器「緑釉（りよくゆう）陶器」や文字が記された「墨書土器」、さらに掘立柱建物跡や灌漑用水路跡が発見されました。これらの成果は古代の人々の生活を垣間見ることができ大変貴重な成果であり、歴史愛好家の間で大きな魅力となりました。

毎年多くのカメラマンを惹きつける「アゲリパーク竜王」のチューリップや「妹背の里」の桜、新たに注目を集めた「善光寺川沿いハナモモ街道」の鯉のぼりなど、竜王町の美しい景観は多くの人々を魅了し、SNSでも話題となりました。

さらに、鶴川天満宮の紫陽花は参拝者に彩りを添え、岡屋農村環境を守る会が手がけたコスモス畑は地元住民や観光客の憩いの場として親しまれています。これら有志の方々のご努力は、地域の自然と文化を守りながら新たな魅力を創出しており、今後の発展にも期待が寄せられています。また、鏡山の鳴谷溪谷は県内外のハ

イカーにも大人気のハイキングコースとなり、美しい風景は、地域の魅力を高める重要な観光資源であると改めて実感しております。

竜王町にはまだ知られていない多くの自然景観や歴史文化があり、これらを発見し伝えることで町を活性化させることができると確信しております。当協会も皆様の知恵や工夫を取り入れ、地域振興に引き続き努めてまいります。

三月十六日（日）には、「鏡の里元服式」を鏡神社で開催いたします。源義経が鏡宿（かがみのしゆく）で元服した伝承にちなんでこの式典は、人生の節目を迎えた方々が新たなスタートを祝うもので、十三歳以上のどなたでも参加が可能です。皆様のご応募をお待ちしております。

また、本年は国スポ・障スポの開催と竜王町制七十周年を迎える年でございます。この記念すべき一年を契機に、地域の歴史と文化をさらに発信し、新たな観光ルートの開発や地元特産品のPR活動に積極的に取り組んで参りたいと存じます。どうか皆様のご協力ご支援を宜しくお願い申し上げます。

最後に、皆さまのご健勝とご多幸を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

『川上の史跡』



竜王歴史倶楽部
甲津美紀子 氏
(川上)

竜王町の北に位置する川上は、人口約七十名の小さな集落です。中世期在地史料には近世の村名として文明十七年（一四八五年）に川上が掲載されています。江戸時代平均村石高は四百二十石で、慶長十九年（一六四九年）村高一五五石四六とわずか百余石の小村ながら七領域の相給村（複数の旗本や大名家臣によって支配されていた村）となり、幕末までこの状態が続いていました。この川上の史跡として次の四点について紹介します。

木造地藏菩薩半跏像 写真①

像高八五・五cmで左足の膝下を台座より垂下する半跏像で、由来等は明らかではありませんが、鎌倉時代初頭の造像とみられています。町指定の文化財で川上の子安地藏さんとして大切に守られています。

相好山光明寺

真宗仏光寺派に属し、京都仏光寺の

末寺です。寺宝として吉野時代初頭（一二四〇年頃）の光明寺尊図や織豊時代初頭（一五五〇年頃）の紙本著色絵系図（写真②）が保存され町指定の文化財です。寺の欄間彫刻は『二十四孝』（七三五年中国の孝行が後世の範として、特に優れた人物二十四人を取り上げた書物）の十四人の物語の彫刻です。元禄九年（一六九六年）作と棟札があり、歴史を感じる欄間です。

柴田勝家判物（中津井文書）

中世近江には村人達が自治を行う「惣村」があり、そこには共有田畠の証文や村の掟など文書が守り伝えられてきました。川上には七村（川上・弓削・川守・綾戸・加與丁・橋本・信濃）で構成された中津井郷（井水組合）の文書として、柴田勝家判物（中津井文書）が嚴重に箱（写真③）で収められ、大切に守られてきました。中津井郷は、十六世紀初頃から存在し、近隣の井郷と争論を明治時代まで繰り返していました。

中津井郷とその上流に位置する宮井郷との間に水争いが起こり、その判定が勝家のもとへ持ち込まれ、勝家は用水路を掘削して中津井郷へ水を流すな

ど指示しました。写真④の文書は、天正三年（一五七五年）六月二十五日付で、勝家の近江時代における統治を具体的に示す貴重な資料で、勝家が越前へ赴任する直前のものになります。

元龜元年（一五七〇年）近江を支配する織田信長は、江南の各郡に有力な武将を配し、民政・軍事両面で支配権を与えました。蒲生郡を任されたのは、長光寺城（近江八幡市）の柴田勝家でした。勝家は、信長の父の代から家臣で、年齢的にも武功においても家中で一目置かれる宿老でした。しかし、蒲生を支配した勝家文書は余り地に残っていません。

中津井文書（町指定文化財）は百三十三点の古文書と絵図からなる貴重な歴史資料で川上のお宝です。

苗村神社祭礼

慶長四年（一五九九年）初発の三十年に一度の大祭は三十余郷とよばれる竜王町を中心とする集落が参加します。また、その中の「九村（くむら）」とよばれる組織は、境内や御旅所で様々な芸能を奉納し、大祭の特別な役割を務めています。九村に入っている川上は、小集落ではありますが単独で奉納行事を行っています。このことより財力や権力があつたことが窺えます。山車は、白鷺山とよばれ大祭に代々奉納されてきました。白鷺は、五穀豊穰

を祝う鳥、百姓の神として祀られてきたことから、五穀豊穣を祈るため山車の名を白鷺山と名付け式年大祭に奉納されることになったと伝えられています。また白鷺囃子という曲名も古来より引き継がれています。

例祭は四月二十日に九村によって行われ、川上が担当する太鼓の合図により各棒侍者が拝殿前に参集します。節句祭（五月五日）に於いても川上は太鼓の役割です。

苗村神社祭礼は、毎年例祭や節句祭の当屋とその他数々の役割があり、区民の大半が参加する川上地区の二大行事でもあります。



③



①



④



②

「橋」と「鬼」のおはなし

山本 茂氏(美松台)

竜王町には、史実に残る特異な橋が二つある。一つは横関川(日野川)の舟橋。江戸期稀代の浮世絵師、歌川広重が武佐の西にある日野川の舟渡しの様子を描いた『木曾街道六十九次・武佐』(写真①)である。決して規模の大きくない横関の舟橋を、絵画のモチーフに選んだのは、この舟橋のユニークさと、この地が醸し出す風情の影響であろうか。因みに江戸期の有名な舟橋では、寛永十六年架橋の神通川のものであり、広重が描いた「越中・富山船橋」として名をあげ、現存しないが今も当地の名所となっている。最長で四三〇m、川の両岸に柱を立てて鎖を渡し、六十四艘の船をつないだものであった。

あと一つは安義橋(現・安吉橋)である。古代、橋は聖なる世界と現世的な俗の世界との境界(いわゆる、能楽における本舞台と鏡の間を繋ぐ橋掛かりのようなもの 写真②)と考えられていた。また橋には妖怪が出没すると言われ、安義橋は人食い鬼の出る橋とされていた。鬼は決まった姿はなく、

超科学的な力、得体の知れぬ恐ろしい化け物として描かれ、その体色は赤・青・黄・緑・黒の五色があり、その種類は数知れず、酒呑童子、目一鬼(まひとつおに)、牛頭・馬頭(ごず・めず)、鬼女、三吉鬼(さんきちおに)などがあつたとされる。

それでは、「安義橋の鬼」は、一体どのようなものであつたのだろう。その抜粋概要を出典元である『今昔物語集』から掲載する。

…近江守の従者の若者達が宴の席で「最近、安義橋を渡る者がいなくなつた」という話が出た時、一人の若者曰く「館で一番の馬に乗れば、たとえ鬼と出会おうとも渡りされる」と豪語したため、自分が行く羽目になる。男は馬を借り、用心のためにその尻に油を塗ると橋に向かった。夕暮れ近くになつて橋に着くと、もう人影は見えない。怖々、橋を渡ると中ほどに女官らしき姿があつた。人ではないと感じて駆け抜けようとする、女が声を掛けてきた。無視して逃げるように駆ける。女は鬼の姿に変わって追ってくる。身

の丈は九尺(約三m)もあつて緑青の色、顔は朱色で丸い目が一つ、指は三本でその爪は五寸(約一五cm)、恐ろしい形相である。鬼は何度も馬を捕まえようとしたが、尻の油のせいで捕らえることが出来ず、「必ずいつかは会つてやるぞ」と捨て台詞を言つて消えていった。

命拾ひした男は館に逃げ帰り、鬼の様子を家人に話した。その後、男の家では奇怪な事が続くので、陰陽師の勧めで物忌みをする事になる。物忌みの夕刻、奥州にいた弟が戻つてきた。最初は物忌みを理由に入室を拒んだが、母親の死を伝えるに来たという弟の言葉に心を動かされ対面。和やかな歓談が続いたが、突然、男たちは取っ組み合いの喧嘩となる。妻が駆けつけると、男が弟を組敷き「刀をくれ」と妻に命じる。だが、兄弟喧嘩と思つて妻は応じない。ほどなく今度は弟が上になると、いきなり男の首を食い千切つてしまった。そして妻に向かって「うれし」と言い消えてしまう。その顔は、まさに夫が安義橋で見たという鬼の顔その

ものであつた。人々は、些事の言い争いで命を失うとは愚かなことだと嘆き悲しんだ。その後、祈禱が行われ鬼も消え、橋にいらなくなつたと語り伝えられている。…

『今昔物語集』は平安時代後期に編纂された説話集で、全三十一巻に総計一〇〇〇以上の短編物語が収録されている。説話は、当時の民衆生活の一端を知ることができる貴重な史料であるが、仏教的・儒教的な教訓の意識も強く、その時代の人々への教えを含んだ例え話ともなっている。中でも最も恐ろしいとされる「安義橋の鬼」は、①



① 木曾街道六十九次
武佐横関の舟橋



② 橋掛かり

鬼に立ち向かう軽佻浮薄な男への行動の戒めであり、また②物忌み（家門を閉ざして慎み、訪客が来ても決して会わない）の禁を破った罰との教えなのだろう。

さて、時代が変わり、科学技術が進歩し人々が妖怪の正体を知った現代、果たして、鬼はいなくなったのだろうか。例えば昨今の選挙を見るとき、フェイクな情報がネットに拡散し、予測困難になってきている。SNSは、情報のアークセス、情報革命など、多くの恩恵をもたらした反面、プライバシー問題、フェイクニュースの拡散、メンタルヘルスへの影響など難しい課題も生み出している。SNSの中に潜む、見えない正体が、人間社会に予測不能な社会現象を起しているのだ。これこそ「現代の鬼」ではないだろうか。



○雲美穂 鬼

参考文献

- *『今昔物語集』巻二十七 第一三話 近江国安義橋鬼噺人語 講談社学術文庫刊ほか
- *『天の橋地の橋―いまは昔むかしは今― 網野義彦ほか編 福音館書店刊
- *『桃太郎は盗人なのか? 「桃太郎」から考える鬼の正体』 倉持よつば著 新日本出版社刊

今後のイベント・祭典情報

一月一日(水)

綾戸・苗村神社
歳旦祭

一月十一日(土)午後一時より

七里・石部(いそべ)神社
弓始め神事

一月十四日(火)午後二時より

田中・八幡神社
粥占い

一月二十二日(水)

二月十八日(火)
草津近鉄一階食品売り場
近江路(竜王町・米原市)
開催
地元特産品販売

一月二十四日(金)午前九時より

駕輿丁・延命子安地藏尊
延命子安地藏尊大開帳

二月一日(土)〜三月十六日(日)

竜王おひなさまめぐり
竜王町総合庁舎、公民館、
図書館、苗村神社社務所、
観音禅寺、道の駅アグリ
パーク竜王、道の駅竜王か
がみの里、毛利志満、岡喜
本店の九箇所て展示

二月八日(土)午後一時より

七里・石部(いそべ)神社
弓納め神事

三月十六日(日)午前九時より

鏡・道の駅竜王かがみの
里・鏡神社
鏡の里元服式

四月二十日(日)

綾戸・苗村神社
苗村祭(例大祭)

五月三日(土祝)

山之上・杉之木神社界限
ケンケト祭り

五月五日(月祝)

綾戸・苗村神社
節句祭・流鏝馬神事



あとがき

観光協会は、今年度の役員研修として十一月十三日(水)に道の駅と隣接ホテルとの成功事例をテーマに研修しました。現在、道の駅アグリパーク竜王では隣接地にマリオットホテルグループのフェアフィールドが運営するホテルが建設される予定です。今回は、先進地として岐阜県郡上市大和町で営業しています道の駅古今伝授の里やまとと、フェアフィールド・バイ・岐阜郡上ホテルの運営を研修しました。近年、コロナの落着きと円安の影響で訪日外国人数は、うなぎのぼりの状況が続いていますが、町内では、インバウンドによる外国人観光客はあまり見受けられません。しかし、道の駅古今伝授の里やまとの社長の話ではフェアフィールド・バイ・岐阜郡上ホテルが誕生すると世界中のマリオット会員が新設ホテルに興味を持ち、一部の会員が訪れているとのこと。実際、郡上市もこれまでインバウンドによる訪日外国人は少数でしたが、ホテル誕生のお陰で、近年は多くの外国人が訪れています。ホテルでは、朝食以外の食事は提供されないことから、周辺には飲食店が出店され繁盛しているようです。私たちの長年の願望でもあるホテル誕生は、観光誘客促進や周辺飲食店、果樹狩り体験等事業にも大いに期待できる施設であり、一日も早い誕生を心待ちにしています。

(観光協会 事務局)

